

読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 小塚 昌弘
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.631

★「2018年度 全国読書グループ総覧」刊行(2頁)
 ★緊急事態、その後の読書推進運動を(3頁)

緊急事態宣言下での 書店の役割、その風景

日本書店商業組合連合会
 会長

やはたひではる
矢幡秀治



4月16日に全国に出された緊急事態宣言が、この5月14日に8都道府県を除きやつと解除されました。とはいえ、まだまだ新型コロナウイルスと共生しなくてはならない生活が続きます。また、緊急事態宣言が解除されていない地域では、本当に厳しい状況が強いられています。日連では同14日に、「書店における新型コロナウイルスガイドライン」をホームページに公表しました。

結果、対象外となり、その判断には満足をしています。しかし、実際には、デベロッパーの要請により休業せざるを得なかった店、人通りが大幅に減少し売上がまったく見込めず休業を選択した店など、ピーク時で1340店、39県で緊急事態宣言を解除後も800店が休業しました。営業していても売上が減少した店もあり、休業要請対象外のために補償がないという問題も生じています。一方、営業を続けることで多くのお客さまが訪れ、売上が2倍近くになった店もあると聞いています。

りして人員不足に陥るなどの問題も起きています。各店さまざまな状況でそれぞれの問題を抱えているのが現状です。売上が好調な店では、児童書、学習参考書が特に売上が伸ばしています。2011年に発生した東日本大震災でも、被災した本屋が再開したとき、多くの方々が紙の本を待ち望み、児童書などを送った支援が喜ばれました。まさに、本は心の栄養素、心の拠り所、テレビやインターネットがある中、読書もしつかりと選択されているのです。

さらに、読書をするために、本屋で本を買ってくださいます。ネット販売では生活必需品が優先出荷されているというところもありますが、内容はもちろん、実際に見てさわ

初、「本屋」は休業要請の対象となるのが、われわれの注目を集めました。本屋としては、本は心の栄養素、そして心の拠り所であるため、要請の対象外になることを望んだところも多かったはずで

ただし、感染拡大防止策(レジ前の透明シート、消毒液の設置、従業員のマスク着用など)に費用がかさむ、従業員が感染を心配し休んだり辞めた

さらに、読書をするために、本屋で本を買ってくださいます。ネット販売では生活必需品が優先出荷されているというところもありますが、内容はもちろん、実際に見てさわ

(本稿は5月25日にいただきました)

『2018年度 全国読書グループ総覧』



ついに

刊行！

いまこそ、仲間とともに読む幸せ、
子どもに本を届ける喜びを胸に刻みたい

全国公共図書館協議会の全面的な協力のもと、2018年秋に実施いたしました「2018年度 全国読書グループ調査」の結果をまとめた『2018年度 全国読書グループ総覧』が、いよいよ6月15日に刊行されます。調査にご協力いただいた、都道府県立図書館をはじめとする公共図書館・類縁機関のみならずには、たいへんお待ちいたしましたこと、お詫び申し上げます。

「2018年度 全国読書グループ調査」は、2018年10月1日現在で公共図書館・類縁機関が把握している読書グループについて調査をお願いし、全国2008機関から1万2364グループの活動について回答をいただきました。調査報告書となる『全国読書グループ総覧』は、掲載許可をいただいたグループのデータとあわせ、各都道府県別の読書グループ数、活動内容別グループ数などの調査結果データを中心に構成されています。特に今回は、公益社団法人 読書推進運動協議会設立60

周年を記念し、調査結果データについて、「図書館と読書グループ」「子どもの読書推進グループ」「読書支援グループ」「学校図書館ボランティア」「子ども文庫」のテーマで識者より考察をいただき、これまで以上に内容の充実を図りました。また、資料として、これまでの野間読書推進賞受賞者一覧、全国優良読書グループ表彰団体一覧、年史『読書推進運動協議会の50年』の増補として2010年から2019年までの当協議会年表と、「読書週間」「子どもの読書週間」のポスターを掲載しております。

6月1日現在、緊急事態宣言は解除されたものの、新型コロナウイルス感染症対策として、まだまだ自由に人が行き来し、集まれる状況にはありません。定例の読書会が開けない、子どもたちへのおはなし会ができないなど、読書グループの活動もかなり制限されている地域もあります。ですが、これはあくまで「非常事態」です。ゴールは遠くても、かならず、多

くの人とふれあい、楽しい時間を共有する日常は戻ってきます。

本紙『読書推進運動』で1968年から現在まで掲載している「優良読書グループのあゆみ」では、一貫して「1冊の本をともに読み、他者の意見を尊重しての話しあい」がもたらす豊かさ、「目の前の子どもたちが、おはなしや絵本で新しい世界を知る瞬間に出会える幸せ」が紹介されてきました。コロナ後の世界で、分断されたつながりを取り戻すために、読書グループが積み重ねてきた豊かな経験は大きな役割をはたすはず

です。全国1万2364の読書グループは、未来への希望でもあります。

『読書グループ総覧』は、6月下旬より配布いたします。公共図書館・類縁機関へは、各都道府県立図書館を通じての配布となります。地域によっては、図書館業務の縮小を余儀なくされているかと存じますので、配布時期・方法についてご要望のある都道府県立図書館ご担当者さまは、読書推進運動協議会事務局までお申し出ください。

●お問い合わせ先

公益社団法人
読書推進運動協議会
TEL 03-5244-5270
FAX 03-5244-5271
e-mail info@dokusyo.or.jp

2018年度
全国読書グループ総覧

発行所：文庫・児童書グループ・読書会・読書会

公益社団法人 読書推進運動協議会

今回は青空をイメージした色が表紙
総ページ数は504です

緊急事態のなか、その後の読書推進運動へ

本に携わる人たちの尽力に感謝！ 心の支え「読書」の楽しみを広げていきましよう

公益社団法人 読書推進運動協議会 事業委員長
株式会社 金の星社 代表取締役社長
齋藤 健司

5月26日、ひと足遅れて首都圏と北海道の緊急事態宣言が解除されました。この間、宣言前を含めて2か月におよぶ外出自粛を余儀なくされ、また、7割の在宅勤務が求められたことで、企業活動は大きく制限されました。しかし、こういった環境下だからこそ得られたことも多くあったように思います。

まずは危機管理。日々変わる状況に対応するばかりではなく、コロナ後を見据えた判断を下すことが、企業経営のみならずさまざまな現場でも求められたことでしょう。また、リモートワークという新たな選択肢が、昨今のIT環境においては、かなり快適に実現で

きるということもわかりました。

出版を取り巻く環境に目を向けますと、宣言前からはじまった学校休校や外出制限により、学習の遅れを懸念して、学習参考書やドリルへのニーズが高まり、それとともに、長い在宅時間に備え、アクティビティブックや、通常は夏休みに動く読みものを求める動きも顕著となりました。自治

体の判断により図書館が閉館となるなか、感染リスクを心配しながらも営業を続ける書店には、そういった本を複数冊抱えてレジに並ぶ人々があふれました。「本の文化を守る」という、勇気ある「決断」にあためて敬意を表します。「本は生活に欠かせない必需品」と、休業要請からはずされたことは、私たちを大いに勇気づけてました。

一方で、残念ながら商業施設内書店や、つねに人が集まりやすい大型書店の多くは休業することとなり、出版社も大きな打撃を受けました。弊社でも、5月連休明け

から、山手線交通広告や大型書店

でのディスプレイなど大がかりな販促を計画していた新刊『グレッタ・トゥーンベリ』がまともに影響を受けました。そんな状況下、予定よりも早く営業再開を決定された紀伊國屋書店新宿本店をはじめ、各書店さまには予定を調整してご対応をいただき、感謝にたえませ

ん。だれもが体験したことのない異常事態にあつて、心配されるのは子どもたちの心のケアです。時間を持ってあまして、テレビやゲーム三昧になってしまいがちなところ、多くの子どもたちが本と向き合う機会ともなったことは歓迎すべきことです。異常事態だからこそ、物語の背景やストーリーの展開に、より集中して想像力を働かせることができたのではないのでしょうか。そういった子どもたちの「知の欲求」をサポートしようと、大阪府を皮きりに、多くの自治体が図書カードの配布を決断したということは、非常に画期的

な施策でした。当会が訴えてきました、「この緊急時にこそ、子どもたちには読書が必要」というアピールが、当会を支えていただいている各界のみなさまを通じて伝わりました。少しばかりでもそのきっかけになったのであれば、うれしく思います。

また、本来であれば身近な憩いの場として、子どもたちにとって

は、本との出会いとともに、貴重な学習の場となるべきはずの公共図書館が、感染予防対策によって閉館となつてしまいました。このことは、たいへん大きな喪失感として受け止められたものと思えますが、休館中でもできることはなにかと、リクエスト本の宅配サービスや、対象年齢別、テーマ別のお薦め選書パッケージの提供など、なんとか利用者のニーズに応えようと知恵を絞られた図書館関係者のご努力は、利用者にも歓迎を持つて受け止められたものと思えます。この異常事態とともに記憶に刻まれる鮮烈な読書体験は、きっと子どもたちの人間形成にも広がりをもたらす一助となるはずです。

しばらくの間は、いままでと同じような人と人のふれあいは制限されます。読み聞かせや読書

会、著者との出会いの場など、本を通じた楽しいイベントの機会も、開催がむずかしいかもしれませんが、人から人へとバトンを手渡すように繋がれて輪が広がるのも、読書の醍醐味です。コロナ禍のなか、Facebookで「7日間ブックカバリーチャレンジ」が広がりました。友人たちの意外な読書体験を垣間見ることができるといったSNS読書リレーです。また、Zoomを使って大勢が参加するセミナーも開催され、新たなコミュニケーションツールとしてさまざまな場面での応用が考えられます。単一生活から得たヒントや手法も駆使しながら、Withコロナが続くこれからも、人々の心の支えとなる「本の文化」「読書の楽しみ」を、力をあわせて伝え続けていきましよう。



巣ごもり中の子どもと一緒に遊べる絵本の需要が高まった



経済活動の縮小がまだ求められるいま、グレッタさんの主張はこれからのヒント

■2020年 国際アンデルセン賞 受賞者発表

ヤングアダルトに人気の
ウッドソンさんが作家賞受賞

国際児童図書評議会(IBBY)は、5月4日月、インターネット上で記者会見を開き、「2020年 国際アンデルセン賞」の受賞者を発表した。当初は3月のポロニヤ・ブックフェア会場にて発表される予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて同フェアが延期(その後、5月にオンラインで一部開催)したため、通常よりも遅れての発表となった。

イスのアルベルティヌが受賞。日本の田島征三さんは画家賞の最終候補まで進んだが、惜しくも受賞を逃した。

IBBY各国支部より推薦された34人の作家と36人の画家より、作家賞はアメリカのジャクリン・ウッドソンさん、画家賞はス

ジャクリン・ウッドソンさんは、ヤングアダルトを対象とした作品を中心に活躍。日本でも『レナ』『あなたはそつとやってくる』『わたしはわたし』など多くの著書が翻訳されている。これまでも全米図書賞、アストリッド・リンドグレン記念文学賞などを受賞してきた。叙情的な文章と力強い登場人物で、わくわくしながら読める。会話のテンポがよく、いきいきとフレッシュな物語に、読者は満足できる点が評価された。

オレンジの牛 マルタが主人公の『マルタとじてんしゃ』(日本ではアルバートインの表記で出版)などで知られるアルベルティヌさんは、ブラチスラバ世界絵本原画展 金のりんご賞など国際的な賞を多数受賞。イラストレーターで作家である点、精密な描写で細部までじっくり描くことで独特の表現を生み出し、さまざま

まな解釈が可能な絵本を出してきたことが評価された。また、子どもの読書普及に大きな成果をあげた団体に贈られる「IBBY朝日国際児童図書普及賞」は、アルゼンチンの「ゆりかごの家おはなし隊(CASACUNA CUCENTEROS)」が受賞した。ゆりかごの家おはなし隊は、一部の富裕層しか図書に触れることがむずかしい、ブエノスアイレスの子ども病院「ゆりかごの家」で、貧しい家庭の親子を対象にストーリーテリングを継続して行うことで、学ぶ意欲と心あたたまる体験を届けている。

授与式は、本年9月より2021年9月に開催が延期された、第37回 IBBY世界大会(ロシア)で行われる予定。



作家賞のジャクリン・ウッドソンさん



画家賞のアルベルティヌさん

■日本児童文芸家協会 各賞発表

読ませる、子どもの気持ちに
よりそう作品が受賞

一般社団法人 日本児童文芸家協会は、「日本児童文芸家協会賞」をはじめとする各賞の受賞作を発表した。

今年の受賞作は以下のとおり。『蝶の羽ばたき、その先へ』

●第44回 日本児童文芸家協会賞
『蝶の羽ばたき、その先へ』
森林こみち(小峰書店)

●第49回 児童文芸家協会賞
『あの子の秘密』
村上雅郁(フレイベル館)

●第3回 児童文芸家協会賞
『ムカッ やきもちやいた』
かさいまり(くもん出版)

●第59回 児童文化功労賞
小澤俊夫(ドイツ文学者)

協会賞の『蝶の羽ばたき、その先へ』は、耳の不自由な中学生の少女の物語。音が聞こえないことを周りに言えない苦しみ、手話仲間との交流による新たな生き方への過程がていねいに描かれていること、文学性の高さや文章のリズムなどが高く評価された。

贈呈式は5月21日に東京都内での開催の予定だったが、感染症の流行を受け、中止となった。

『ムカッ やきもちやいた』は、小学生の少女の気持ちにびたりとあわせ、楽しく読めること、絵本に仕上げたことで主人公の気持ちの変化を場面で見せた「夫が受賞につながった。功労賞はふたり。小澤俊夫さんは、ドイツ文学者としてグリム童話などを研究、また、日本の昔話の研究・採集にも尽力し、日本各地で「昔はなし大学」を主宰してきた。なかえよしをさんは、今年刊行45周年となる上野紀子さんの『ねずみくんの絵本』シリーズをはじめ、多数の人気絵本を発表してきた。

新人賞『あの子の秘密』は、前

■日本文学協会 各賞発表

Web会議、メールでの討議で
受賞作を決定

一般社団法人 日本文学協会
協会は、「日本文学協会協賛賞」
をはじめとする各賞の受賞者を発
表した。

今年の受賞者は以下のとおり。

●第60回 日本文学協会賞
『アドリブ』

佐藤まどか(あすなろ書房)

●第53回 日本文学協会賞
新人賞

『一富士茄子牛焦げルギー』

たなかしん(BL出版)

●第24回 三越左千夫少年詩賞

『へんてこあそびうた』

岩佐敏子(リーブル)

『はてなとびつくり』

大楠翠(銀の鈴社)

今年の選考会は、Web会議や
メールを交換しあつての議論・投
票などで行われた。

協会賞の『アドリブ』は、イタ
リアで表現したフルートを学ぶ少
年・ユージが主人公。国立音楽院
に入学し、クラシック音楽界の厳
しい現実を目の当たりにしながら
も、音楽に向きあい、成長してい

く姿が音楽の魅力とともに表現さ
れていると、作品の完成度が高く
評価された。

タイトルが個性的な、新人賞『一

富士茄子牛焦げルギー(いちふ

じなすこうしこげるぎい)は、

軽妙な関西弁の会話と独特のユー

モアあふれる文体で子どもたちの

笑いを誘いながらも、主人公が抱

える母親への思い、父親への信頼

と愛情がしっかりと心に響く、絶

妙なハーモニーが魅力。

三越左千夫少年詩賞は、2作

品が受賞した。『へんてこあそび

うた』は、「あ」から「ん」まで

のことば遊びの詩集。全体を通し

てのユーモアのある物語性が注目

された。『はてなとびつくり』は、

タイトルどおり「?」「!」と思っ

た瞬間や事象を、鋭い感性でとら

え、的確に表現した作品として受

賞にいたった。

贈呈式は東京都内で5月29日に

開催予定だったが、感染症拡大防

止対策として中止となった。また、

同日に予定されていた、恒例の学

習交流会も中止となった。

■「矢祭町もつたない図書館 手づくり絵本コンクール」

最優秀賞は印刷、製本!
手づくり絵本のコンクール

福島県矢祭町では、6月1日(月)
より「第12回 矢祭もつたない
図書館 手づくり絵本コンクー
ル」の作品を募集している。

「自然・友情・心の大切さと、夢

と希望がいつばいの絵本をつくつ

てみよう。そして優しい心を世界

にとどけよう」と、矢祭町に関す

る内容や、特産品にまつわるもの

などを描いた作品が対象の創作絵

本コンクールで、最優秀賞受賞作

品は印刷製本し、副賞として作者

へ贈呈される。また、最優秀賞

者は絵本大使として1年間任命さ

れる。

募集部門は「一般の部」(高校

生以上)と「家族の部」(中学生

以下の幼児・児童・生徒と家族。

アマチュアの人(絵本を商業的に

出版したことのない人)ならだれ

でも応募できる。締め切りは9月

30日(水)(消印有効)。

審査委員は柳田邦男さんとあべ

弘士さん。応募作品はすべて、矢

祭もつたない図書館に展示され

る。表彰状授与式は本年12月12日

(土)に予定されている。

応募作品の大きさ、ページ数な

どの応募規定、応募方法、応募時

に必要な応募票のダウンロードな

ど、詳細は矢祭もつたない図書

館のホームページで確認できる。

また、過去の受賞作や審査の様子

なども見ることが出来る。

●矢祭もつたない図書館

TEL 0247-461464

http://www.mottainai-

toshokan.com/

■展示会など情報

ご紹介した展示会・イベントの
中止・変更のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大
防止対策の影響を受け、本紙で紹介
した展示会などに、中止、日程
の変更がありました。

●国立国会図書館 国際子ども図
書館(6月11日(木)より一部再開館)

・展示会「スポーツと子どもの本」

・企画展「生誕110年 赤羽末吉

絵本への一本道」

↓中止

●ちひろ美術館・東京(6月20日

止)より再開館

●絵本ギャラリーinなら

(7月25日(土)・26日(日))

↓開催日程変更

11月7日(土)・8日(日)

*6月9日現在

状況によつては、日程の再変更

もあります。

国際子ども図書館、ちひろ美術

館・東京では、開館状況や来館時

に気をつけてほしい点をホーム

ページで紹介しているので、利用

の際は確認をお願いします。

●国際子ども図書館

https://www.kodomo.go.jp/

●ちひろ美術館・東京

https://chihiro.jp/tokyo/

優良読書グループの歩み (6)

2019年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

おはなしカレンダ―

代表者 中野 美里
千葉県臼井市

〈推薦〉
千葉県読書推進運動協議会

「おはなしカレンダ―」は1994年、臼井市千葉ニュータウン桜台地区の街開きとともに、各地から入居してきた母親たちが、子どもたちに絵本の楽しさを届けるために作ったグループで、今年度25周年を迎えました。団体名には、「絵本の読み聞かせをとおして、子どもたちに季節を感じてもらいたい」という願いをこめています。

活動は、地区の公民館である桜台センターで月2回のおはなし会から始まり、その後、保育園・小中学校・老人福祉施設などへと活動の場を広げてきました。

また、小学校の図書整理や老人福祉施設での見守り支援など、お

はなし会以外の活動も行っています。

現在の活動は、メンバー7人で桜台センターのキッズの時間でのおはなし会や、通所介護施設サクラピアでのおはなし会で、絵本の読み聞かせ・手あそび・素話・紙芝居・パネルシアターなどをしていきます。地元の小学校の図書整理も続けています。

特別活動としては、図書館の夏休みおはなしウィークや桜台センターフェスティバルでのおはなし会があります。また、「しろい人形劇まつり」があつたときには、実行委員となり、おはなし会も開催し、盛りあげました。中学校で特別授業の講師を務めたこともあります。

メンバーの多くは、仕事・介護・家庭とボランティア活動を両立させながら活動に取り組んできましたが、参加者の「楽しかった」「おもしろかった」ということばと笑顔に励まされ、おはなし会を続けてこられました。おはなしを通じ

て参加者と心が通じあつた瞬間のうれしさは、格別なものです。

そして、メンバーの絆は深く、特別な活動の際には結成20周年を記念して作製したおそろいのエプロンをつけて、楽しみながらボランティア活動を続けています。

現在でも毎月、語りの勉強会へ参加するなど、つねにスキルアップを図っており、参加者に喜んでもらえるようなおはなし会を目指し、努力しています。

これからも、私たちのおはなし会が必要だと声をかけてくださる場所で、地道な活動が続けていき、その活動が子育て支援や高齢者の見守りにつながれば、うれしく思います。



地域に根ざした地道な活動をこれからも

南部町立図書館「ひよこの会」

代表者 望月 知子
山梨県南巨摩郡南部町
〈推薦〉
山梨県公共図書館協会
読書推進運動部会

1997年、富沢町立富川図書館の活動補助依頼を受けて、有志5人が集まったことが、グループ誕生のきっかけでした。それから数年後に、「ひよこの会」と命名しました。なにもわからずはじめてばかりの活動グループで、「まだまだ私たちひよっこだからね」と、何気ないひとことから名づけられました。

当初は毎週1回、午前中に乳幼児を対象に、絵本の読み聞かせ、手あそび歌のおはなし会を開き、季節にあわせたおはなしや七夕まつり、クリスマス会、運動会などの行事も行っていました。

いま現在はメンバー9人で、図書館からの依頼を受けて、定期的に町内の保育所、小学校、福祉施設、夏休みには児童館へ出向き、活動をしています。訪問前には、毎週集まり、練習を行います。おのおの仕事や介護をしながらなので、9人全員そろつての活動はな



おはなし会の舞台や小道具は手づくり

かなかできませんが、できる範囲で楽しんでもらえるように意見を出して、工夫しています。おはなし会で使われる舞台セットや大型紙芝居、ペープサート、人形やその衣装の製作は、得手不得手のメンバーが協力しあつて、心をこめて楽しんで一から手づくりしています。また、おはなし会の内容向上のため、町内外のおはなし会を鑑賞したり、講演を受講したりしています。

私たちは、今後も無理のない活動を長く続け、地域の方々とふれあつていきたいです。そして、この活動をとおして、図書館をもっと身近に感じ、本の楽しさを伝えられたらと思います。

おはなしかざぐるま

代表者 池内 厚子
鳥取県鳥取市

〈推薦〉
鳥取県読書推進運動協議会

私たちの活動は2007年5月、「小学生に本に親しみ、たくましく生きてほしい」というひとりの図書館司書の熱い思いから、週一回小学校に出向き、各学年を順々に読み聞かせたところからはじまった。とくにチボール・セケリ著の『ジャングルの少年』に心ひかれ、絵本というより物語を読んだ。その後少しずつ会員が増え、現在は9名。

2011年度からは、毎月第2金曜日を活動日とし、図書室の先生を中心に「年間スケジュール表」が作成され、始業前の10分間、全学年一斉に読み聞かせを行えるようになった。朝読後には、子どもたちの反応、選書についてなど情報交換もしている。

2015年、おはなしが風に乘ってクルクルとクラスをまわっていきようにとの願いをこめて、グループ名を「おはなしかざぐるま」と命名。読書週間にはたて割



おはなしが学校中をクルクルとまわっていくのが夢

り班（1年から6年の混合）での読み聞かせや、低学年を一堂に集め、大型絵本、ストーリーテリング、手あそびなども行う。学年にあった選書はむずかしいが「おもしろかった！ありがとう。」の声を聴くといちだんと力が入る。また、一喜一憂しながら話を楽しんでくれる子どもたちの豊かな表情にふれると、本を介して「心が通いあっているな」と感じる毎日である。

年度末には、子どもたちからおもしろかった本の感想が書かれた手紙や、また、図書委員からは感謝状をいただき、はげみになっている。

図書館主催の「ボランティア養

成講座」「スキルアップ講座」に積極的に参加し、「音読教室」には、毎月会員の半数が参加し楽しい音読を体験し、詩やことば遊びを習い、子どもたちに届けている。会員のなかには手話を読み聞かせに盛りこんだり、高齢者対象のいきいきサロンや、放課後児童クラブなどでの読み聞かせを実施し、ボランティアを通じて新しい出逢いと、学びの心をもっている。

てんじん文庫

代表者 岸本奈保子
佐賀県武雄市

〈推薦〉
佐賀県読書推進運動協議会

てんじん文庫は、1995年に、公立小・中学校が第2・第4土曜日が休業日となった年に、市内天神地区の子どもたちの土曜日の居場所として、地区の公民館で活動をはじめました。そして、2000年から武雄市図書館・歴史資料館に活動の場を移し、読み聞かせを行うようになりました。

図書館には、てんじん文庫のほかに読み聞かせを行う3つのグループがあり、当番制で土曜日午前の30分間のおはなし会を担当し



クリスマスのおはなし会ではメンバーがサンタさんに!

たり、ともにスペシャルおはなし会を開いたりしています。4つのグループで行った昨年のクリスマススペシャルおはなし会には、130名もの親子が来てくれました。

また、武雄市が行うブックススタート事業へも参加しています。2017年には武雄市子ども図書館が開館し、毎日、午前と午後におはなし会が行われています。そのうち火曜日と木曜日の午前と午後はボランティアがおはなし会を担当しています。てんじん文庫はこの活動にも参加しています。

多くの活動をおとし、メンバー4人の絆は強くなっています。おはなし会の前におたがいの読み聞かせを聞きアドバイスをし、ペー

プサートや影絵などを一緒に作り練習する時間も設けています。

私たちが活動を続けていくうえでのおはなしの喜びは、集中しておはなしを聞いてくれる子どもたちの真剣なまなざしと笑顔です。

てんじん文庫の活動の場は大きく広がっていますが、私たちメンバーは4名。とても、ひとつのグループだけで続けていくのは、むずかしいことです。そんななかで、ほかのボランティアグループとの繋がりは、私たちの心強い味方となり、活動を続けていく力になっています。

私たちの活動の中心には、「絵本」があり、てんじん文庫の4人は「絵本」を通じて「出会い」「繋がった」仲間です。そして、この活動をとおし同じ気持ちを持つほかのグループとも出会い、繋がることができました。もちろん、おはなし会に出てくれる子どもたちとの出会いと繋がりもあります。

私たちは、いろいろな「出会い」と「繋がり」から刺激と学びの機会をもらい、成長していることを実感しています。

毎回のおはなし会は、新たな出会いの場！毎回緊張しますが、これからもチャレンジしていきたいと思います。

■童美連「読み聞かせ応援隊」

絵本の読み聞かせ動画を
作成・配信する前に一読を

一般社団法人 日本児童出版美術家連盟(童美連)は、ホームページ内「読み聞かせ応援隊」で、絵本などの読み聞かせにともなう著作権上の注意点を発信している。

現在、新型コロナウイルス感染症対策で自宅に籠もらざるをえない子どもたちのために、YouTubeなどで絵本の読み聞かせ動画が多く配信されているが、なかには、著作権者の許諾を得て

いない、読み手が文章を変えて読んでいたり、問題のある動画も含まれている。著者の権利を守り、今後ますますほしい絵本が発表されるためにも、読み聞かせ動画を配信する前にいまいちど、著作権について確認をしたい。

「読み聞かせ応援隊」では、どういう状況での読み聞かせ、絵本の使用なのか、それぞれ細かい例をあげての説明と、著者への使用許



「読み聞かせ応援隊」

諾の方法が紹介されている。

●童美連「読み聞かせ応援隊」

<http://dobiren2.main.jp/yomikikase/>

「子ども文庫助成」受領者情報の
ページを開設

■伊藤忠記念財団「文庫のひろば」

公益財団法人 伊藤忠記念財団は、4月よりホームページに「文庫のひろば」を開設している。

同財団の「子ども文庫助成事業」を2017〜2019年に受領した文庫・団体の一覧「受領団体紹介」は、地域・都道府県別に文庫を紹介。かんたんな文庫紹介や、各文庫のホームページ(ホームページがある文庫のみ)へのリンクも掲載されている。

「文庫情報コーナー」は、今年度の助成より助成金の使途として認められる「指定研修会」を開催する5団体の「講習会・研修会スケジュール」と、各文庫の情報などを掲載する「レポート・お知らせ(現在準備中)」となっている。

同財団では、「文庫のひろば」を、文庫・実演グループなどボランティアへの情報発信の場として、助成受領団体のコミュニケーションシ



「文庫のひろば」

ョウのきつかけ作りに活用してもらうことを期待している。

●伊藤忠記念財団「文庫のひろば」

<https://www.itc-zaidan.or.jp/summary/ibrary/introduce/>

事務局報告(5月)

4月に引き続き、5月も事務局は新型コロナウイルス感染症対策のため、在宅・時短勤務併用勤務

☆4月23日〜5月12日「第62回こども読書週間」

☆11日「朝日税理士法人と2019年度決算書作成にっき打ちあわせ」

☆15日「機関紙『読書推進運動』63号出来

☆15日「各都道府県読書推進運動協議会・中央図書館および関係者へ」第50回「野間読書推進賞」受賞候補者推薦を依頼

☆18日「新型コロナウイルス感染症対策のため、2020年度第1回理事會」26日開催予定の延期を決定、決議事項は定款第38条により、書面決議とする

☆19日「子どもの読書推進会議「第1回幹事会」(6月8日開催予定)の中止を決定。書面報告にて代替

☆20日「子ども読書の読書推進会議」2019年度収支決算書「監査

☆25日「各都道府県読書推進運動協議会・中央図書館へ」2018年度全国読書アレルギー「総覧」の送付希望数確認を依頼

●編集部 & 事務局の
ひとこと

●本紙4月号巻頭に「登場いただきたい赤羽茂乃さんの著書、評伝『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にかける虹』(福音館書店)が刊行されました。この本にはたびたび、末吉さん夫婦とその子どもたちの一家で食卓を囲むエピソードが紹介されています。末吉さんがいろいろな思い出や絵画論を語り、みんな「ああ、またこの話を」と相手しなないなか、家族に加わって日の浅い茂乃さんが、吉さんの話の背景を調べたことが、この一冊へつながりました。

●若き日を満州で過ごした末吉さんは、敗戦後の引き揚げ時に危険と知りながら、満州や内モンゴルでのスケッチや撮影した写真を持ち帰っています。大陸の風景の雄大さとそこに暮らす人びとの姿を、絵にして伝えたいの思いからです。多くの子どもたちの心を揺さぶる『スーホの白い馬』には、末吉さんの覚悟と思いが伝わっています。

●評伝の巻末で末吉さんの三男で茂乃さんのお連れあい、研三さんがこう書いています。「父の遺した資料整理をしながら、それまで丁寧に読んでいなかった父の絵本を読み直し、また今、息子の私もよく知らなかったことまで調べてある茂乃の詳細な伝記を読んで、とりわけ、自分の幼少の頃、見るともなく見ていた絵とそれを描いている父の姿が思い出され、父が、沈黙のうちに私に贈ってくれたもの大きさを思うのである。」書物として記録し、表現することの大切さを再認識します。(伸)